

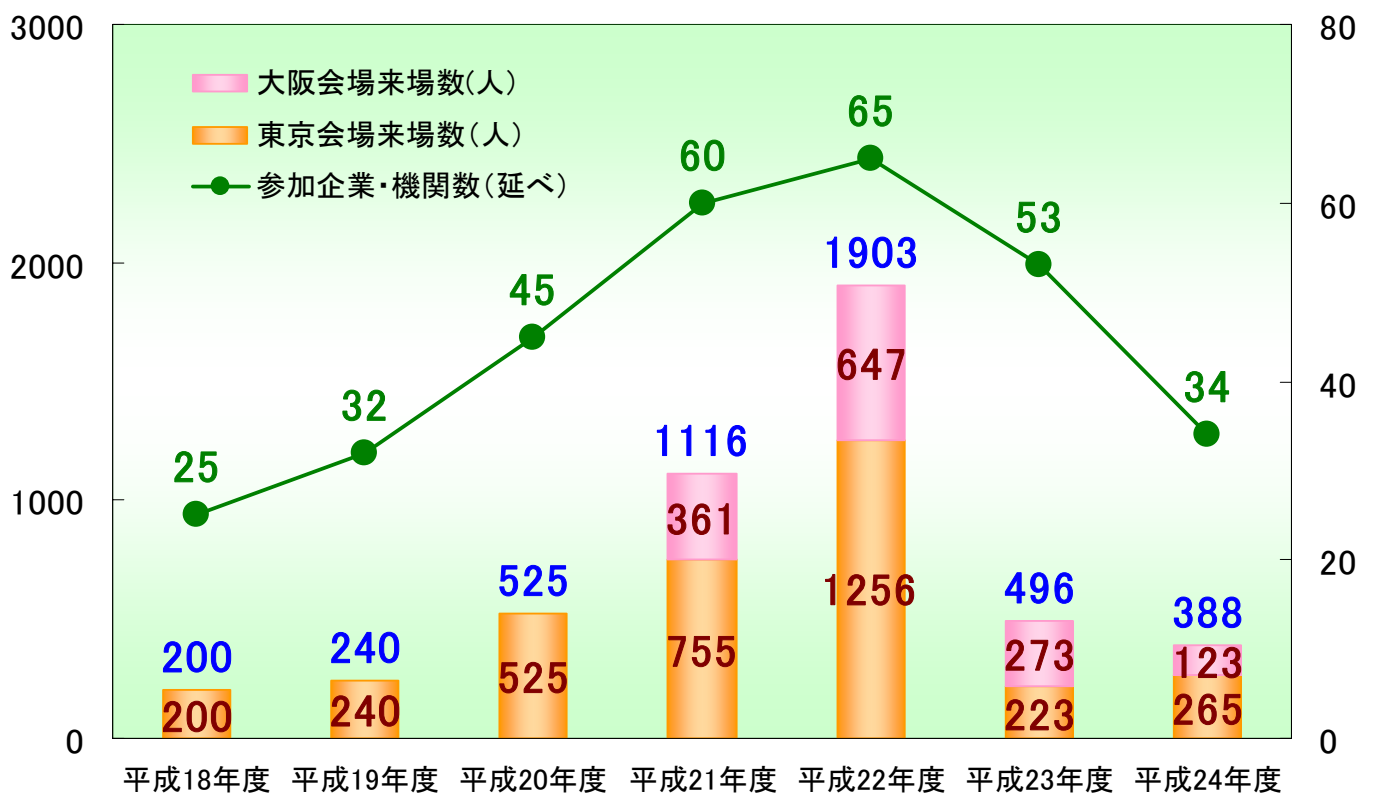
原子力産業セミナー2014 報告書

(一社)日本原子力産業協会および関西原子力懇談会は、2014 年卒の大学生・大学院生を主な対象に、合同企業説明会「原子力産業セミナー2014」を以下の通り開催いたしましたので、ご報告申し上げます。なお、本セミナーは今年度で 7 回目の開催となります。

1. 概要

()内の数字は昨年度のものです。

	東京会場	大阪会場	
開催日	平成 25 年 2 月 2 日(土)	平成 25 年 2 月 9 日(土)	
開催場所	新宿エルタワー30 階 サンスカイルーム	梅田スカイビル 3 階 ステラホール	合計
来場学生数	265 人(223 人)	123 人(273 人)	388 人(496 人)
参加企業・ 機関数	21 社(29 社)	13 社(24 社)	34 社(53 社)



原子力産業セミナーの来場数および参加企業・機関数の推移

2. 参加企業・機関一覧

電力関連企業(五十音順)		東京会場	大阪会場
1	関西電力株式会社	○	○
2	中国電力株式会社	○	○
3	中部電力株式会社		○
4	日本原子力発電株式会社	○	○
5	日本原燃株式会社	○	○
重電、機械メーカー(五十音順)		東京会場	大阪会場
6	株式会社 IHI	○	○
7	株式会社東芝	○	○
8	株式会社日立製作所	○	○
9	三菱重工業株式会社	○	○
プラント・エンジニアリング企業等 (五十音順、*は初参加)		東京会場	大阪会場
10	岡野バルブ製造株式会社*	○	○
11	関電プラント株式会社		○
12	原燃輸送株式会社	○	
13	新日本空調株式会社	○	
14	株式会社千代田テクノル	○	
15	東芝プラントシステム株式会社	○	○
16	東洋エンジニアリング株式会社	○	
17	日本エヌ・ユー・エス株式会社	○	
18	日立アロカメディカル株式会社*	○	
19	株式会社日立プラントテクノロジー	○	
公益・特殊・独立行政法人(五十音順)		東京会場	大阪会場
20	原子力規制委員会原子力規制庁・ 独立行政法人原子力安全基盤機構	○	
21	原子力発電環境整備機構	○	
22	一般財団法人電力中央研究所	○	
23	独立行政法人日本原子力研究開発機構	○	○
合計		21	13

3. 後援・協賛

以下の通り、13 団体・機関からの後援・協賛を頂きました。

後援	協賛団体(五十音順)
原子力委員会	公益社団法人 応用物理学会
文部科学省	独立行政法人 国立高等専門学校機構
経済産業省	一般社団法人 電気学会
	一般社団法人 電子情報通信学会
	公益社団法人 土木学会
	公益社団法人 日本化学会
	一般社団法人 日本機械学会
	一般社団法人 日本原子力学会
	一般社団法人 日本建築学会
	一般社団法人 日本保健物理学会

4. 来場学生データ

来場学生データは、学生がセミナー会場へ入場する際に提出する「受付票」の集計結果をまとめたものです。「受付票」には、所属学校名・学部・学科・氏名等を記入し、会場受付で全員提出するほか、訪問した企業・機関ブースでも1枚ずつ提出します。

①所属

昨年度と比較して、大阪会場では院の割合が増加したのが特徴です。

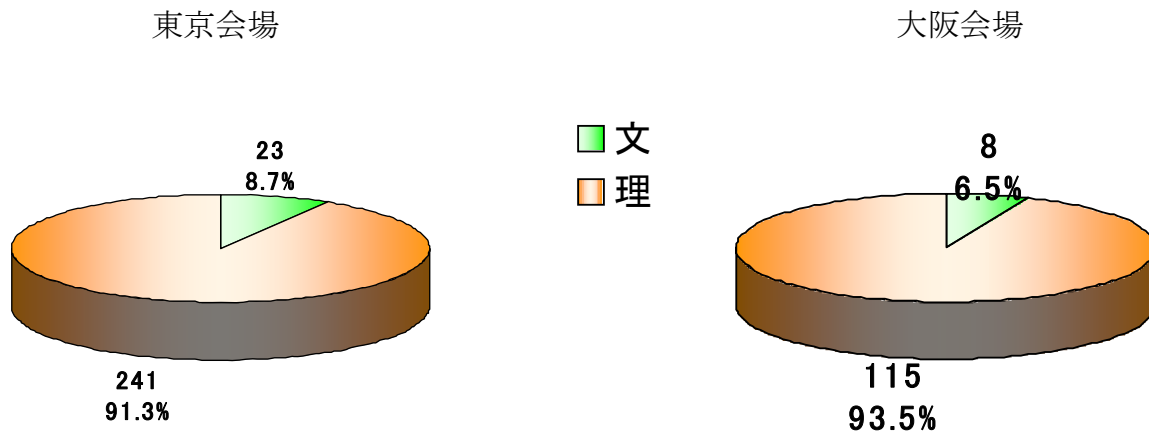


所属	東京会場		大阪会場	
	人数	割合	人数	割合
院※	149(131)	56.2%(58.7%)	83(150)	67.5%(54.9%)
学部	111(92)	41.9%(41.3%)	39(121)	31.7%(44.3%)
短期大学	0(0)	0%(0%)	0(1)	0%(0.4%)
専門学校	0(0)	0%(0%)	0(0)	0%(0%)
高専	1(0)	0.4%(0%)	1(1)	0.8%(0.4%)
合計	265(223)	100%(100%)	123(273)	100%(100%)

※マスター、ドクターを合算しております。
四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合があります。
()内の数字は、昨年度のものです。

②文理別割合

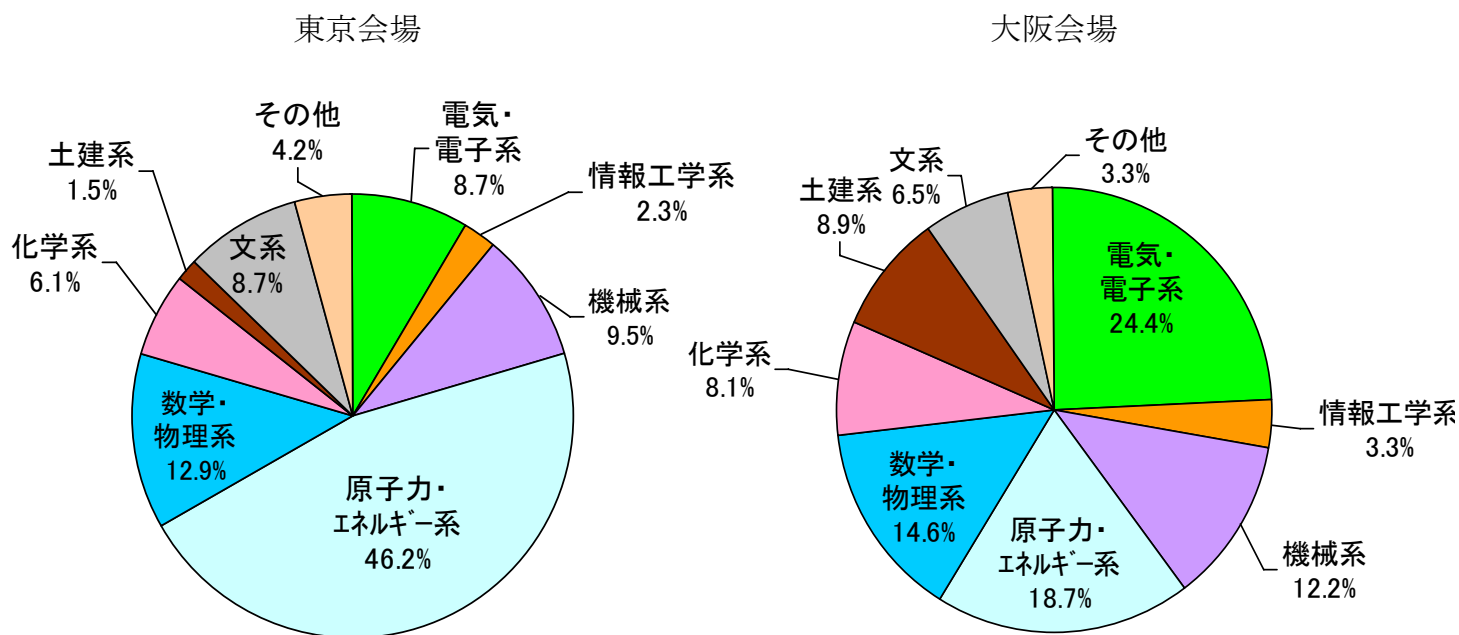
昨年度と比較すると、今年度は文系・理系の割合は東京会場ではほぼ同じ、大阪会場では理系が増加し、文系が大きく減少したのが特徴です。



来場者合計	東京会場		大阪会場	
	人数	割合	人数	割合
文	23(22)	8.7%(9.9%)	8(67)	6.5%(24.5%)
理	241(201)	90.9%(90.1%)	115(206)	93.5%(75.5%)
合計	265(223)	100%	123(273)	100%

()内の数字は、昨年度のもので。

③各学科が占める割合

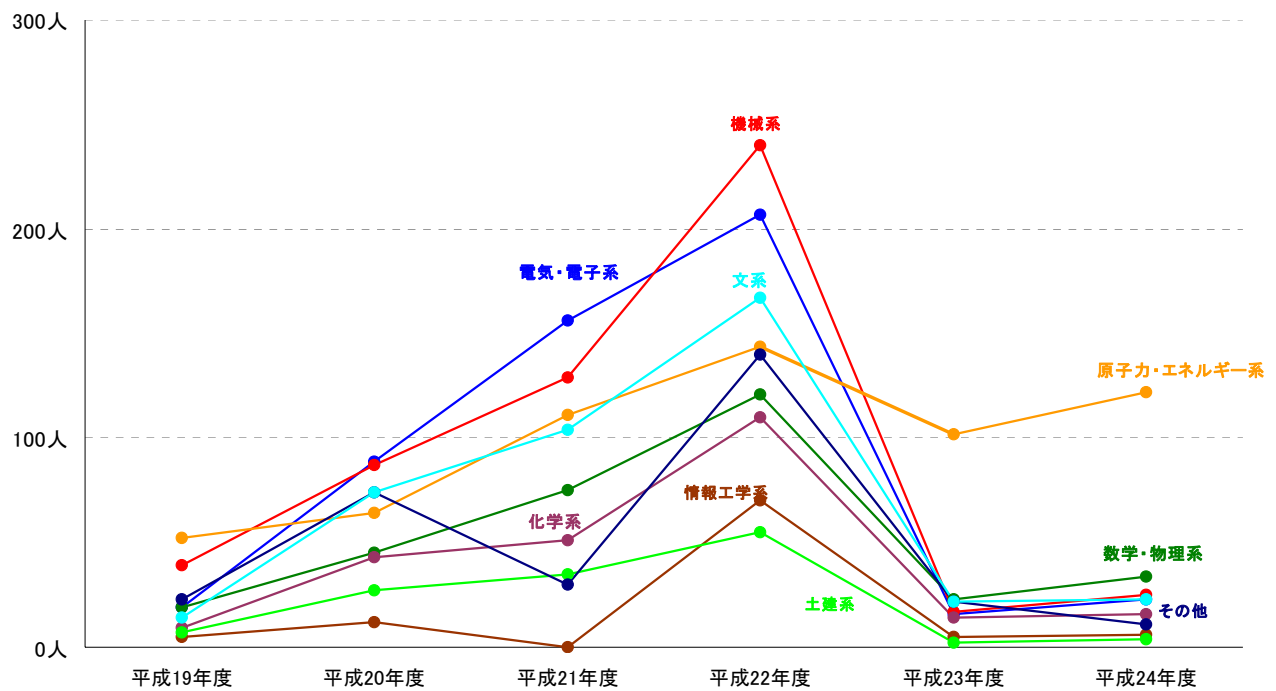


分野	東京会場		大阪会場	
	人数	割合	人数	割合
電気・電子系	23(16)	8.7%(7.2%)	30(42)	24.4%(15.4%)
情報工学系	6(5)	2.3%(2.2%)	4(11)	3.3%(4.0%)
機械系	25(17)	9.5%(7.6%)	15(15)	12.2%(5.5%)
原子力・エネルギー系	122(102)	46.2%(45.7%)	23(70)	18.7%(25.6%)
数学・物理系	34(23)	12.9%(10.3%)	18(30)	14.6%(11.0%)
化学系	16(14)	6.1%(6.3%)	10(9)	8.1%(3.3%)
土建系	4(2)	1.5%(0.9%)	11(1)	8.9%(0.4%)
文系	23(22)	8.7%(9.9%)	8(67)	6.5%(24.5%)
その他	11(22)	4.2%(9.9%)	4(28)	3.3%(10.3%)
合計	264(223)	100%	123(273)	100%

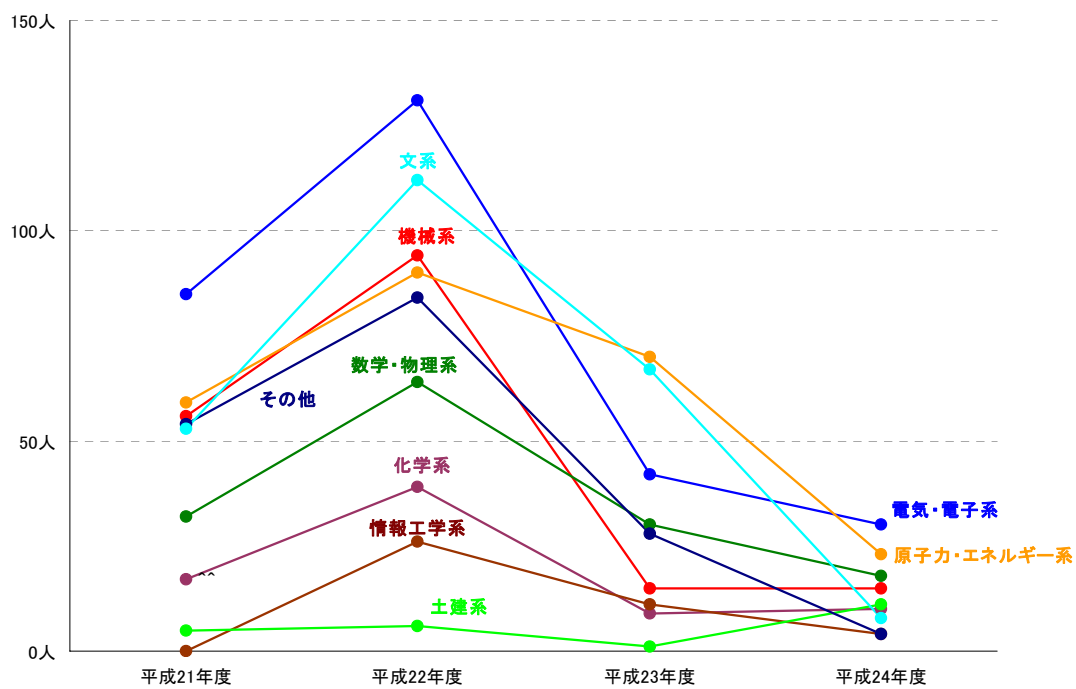
()内の数字は、昨年度のものです。
東京会場では1名不明。

④来場学生の学科別人数の経年変化(会場別)

東京会場

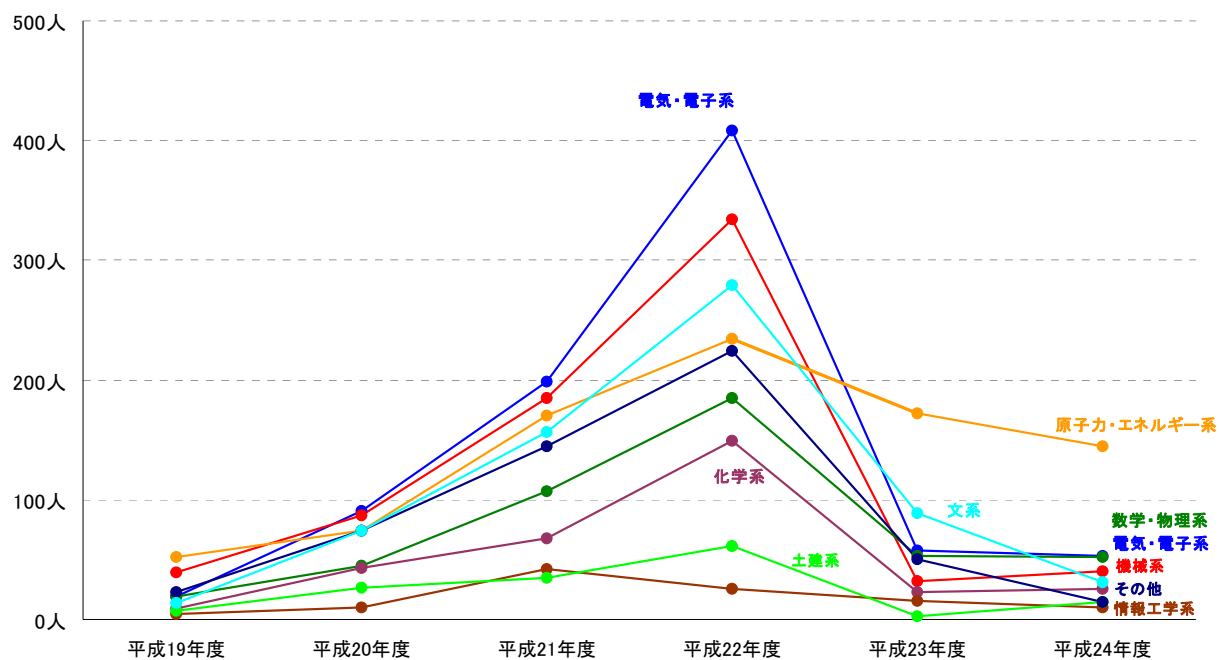


大阪会場

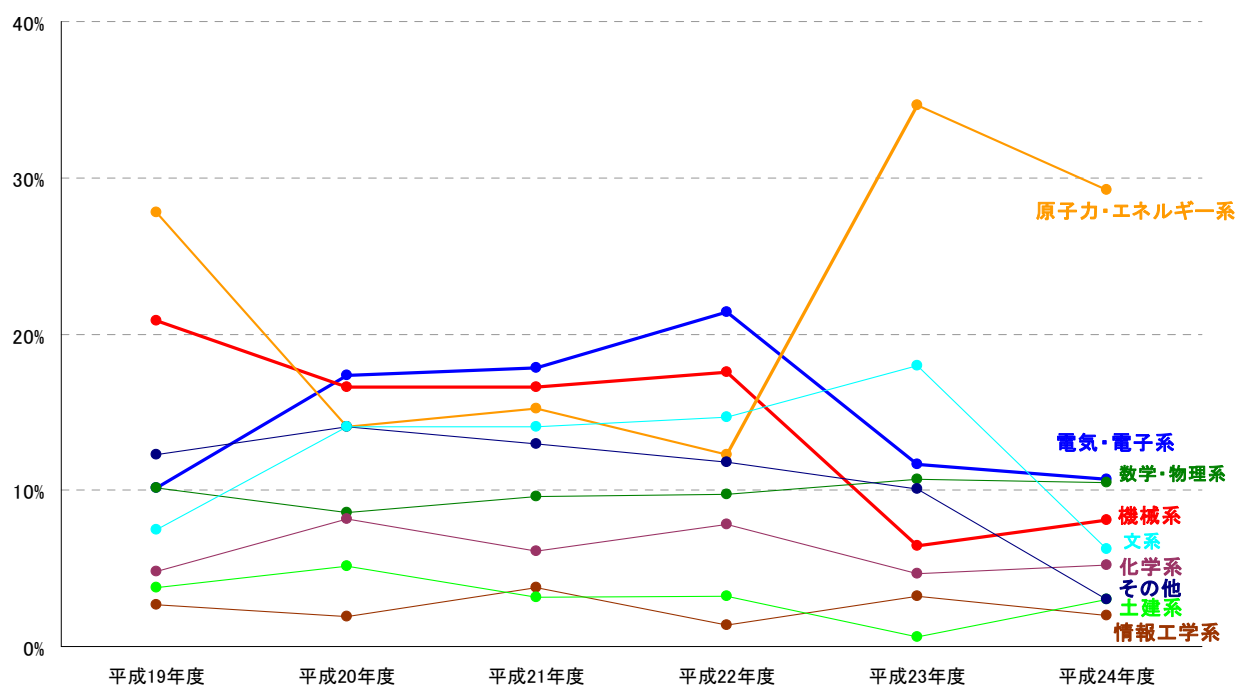


大阪では平成 21 年度より原子力産業セミナーを開催。

⑤来場学生の学科別人数の経年変化(両会場の合計)

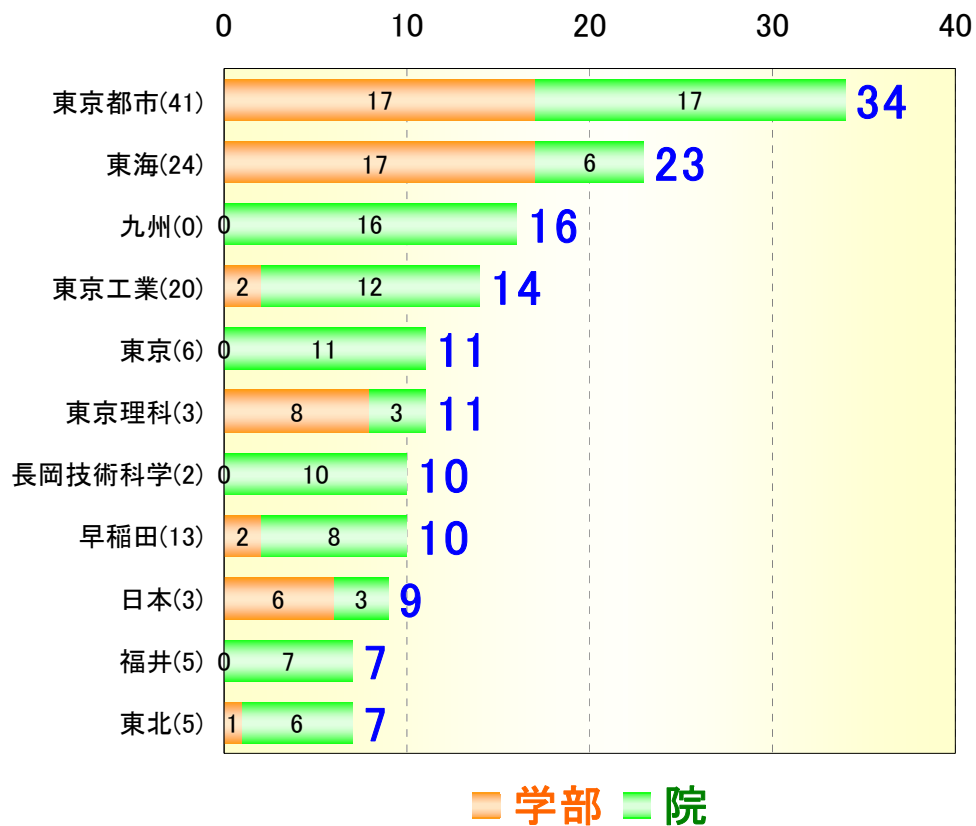


⑥来場学生の学科別割合の経年変化(両会場の合計)

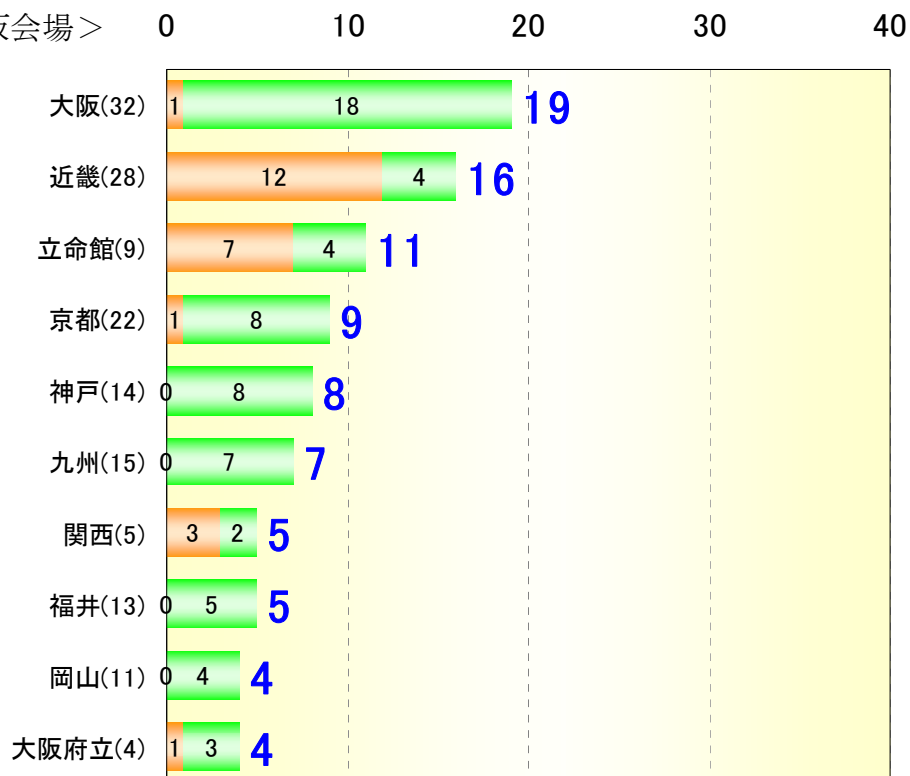


⑦大学別来場数（上位 10 校のみを掲載）

< 東京会場 >



< 大阪会場 >



()内の数字は、昨年度のものです。

⑧来場学生データのまとめ

- ・東京会場の来場者数は、前回に比べて微増（約 40 名増）でした。
- ・東京会場には、九州大学の学生（ほとんどの学生がエネルギー量子工学専攻）16 名が参加しました。前回の東京会場には九州大学からの来場学生は 0 名でした。大阪会場に比べ東京会場の参加企業・機関数が多いため、これらの学生が東京会場に来場したものと推測しています。
- ・大阪会場の来場者数は、前回に比べて半数以下に減りました。大阪会場は、東京会場の約半数の来場者数という従来の傾向に戻りました。
- ・大阪会場では、原子力・エネルギー系ならびに文系の来場者数が減少した。その他の学科の来場学生数はほぼ横ばいでした。（昨年度同様に文系学生には積極的に PR していません。）
- ・東京会場・大阪会場とも、前回に引き続き、企業・機関からの採用ニーズの高い「機電系」学生の来場者数は依然として少ない（ほぼ横ばい）状況です。

5. プレス対応

本セミナーの参加企業・機関数ならびに来場学生数が、原子力産業の実情と社会の原子力に対する評価と関心を端的に表しているため、プレス関係者の関心は高いです。各プレスには原子力政策の方向性のいかんによらず、長期的に人材が必要であることを訴えました。新聞記事については、添付資料 3 のとおり。

（各プレスの取材）

<東京会場>

- ・ NHK
 - 当日午後 6 時からの全国版ニュースで報道
- ・ 日経新聞
- ・ 朝日新聞
- ・ 電気新聞
 - 2 月 6 日付けの 1 面に記事掲載

<大阪会場>

- ・ 産経新聞
 - 2 月 10 日付けの朝刊に記事掲載
- ・ 読売新聞
 - 2 月 10 日付けの朝刊に記事掲載

6. 総括

- ・昨今の原子力産業を取り巻く厳しい状況の中、新卒採用を控えたり、採用計画の目途が立たない企業・機関も多く、参加企業・機関数が大幅に減少しました。
- ・前回（福島第1原子力発電所事故以降）からすべての学科で来場学生数が減少しましたが、今回は大阪会場での「文系」および「原子力・エネルギー系」の来場学生数の減少幅が大きい結果となりました。その他の学科はほぼ横ばいで、依然として厳しい状況と言えます。
- ・大阪会場での来場学生数の減少は、参加企業・機関数の減少、原子力発電所の再稼働の目途が立たない等の理由により、原子力に対するイメージダウンが主に影響していると考えられます。

7. 課題

前回に引き続き、機械・電気系の参加学生が少なく、今回は大阪会場での原子力・エネルギー系学生も減少し、大きな問題としてとらえています。これは、福島第一原子力発電所の事故以降、学生が原子力産業界を就職先として敬遠していると考えられます。また、大阪会場で文系来場学生数が大きく減少したことは、社会の原子力産業に対する評価・関心を端的に表していると言えます。

この状況が続くと、原子力産業の技術維持が難しくなり、国全体の損失にもつながりかねません。国ならびに産業界全体がこの状況を受け止め、産官学の総力を挙げ、若者に対し、今後どのような政策がとられるとしても、既存の原子力発電の安全な利用や廃炉・除染等で長期にわたり継続して新しい人材が必要であることを訴えていく必要があります。さらに、原子力産業には、原子力発電以外の分野（放射線利用等）もあり、広がりのある産業であること、原子力産業が原子力を学んだ学生のみならず全ての学科の上に成立つ総合産業であること、奥が深く数々のおもしろみを持っていることを伝える必要があります。国が原子力政策ならびに福島における廃炉・除染に係る明確なビジョンをわかりやすい形で示すことが期待されています。

添付資料

- 添付資料 1. セミナー会場の構成と写真
- 添付資料 2. 来場学生の声（学生アンケートより抜粋）
- 添付資料 3. 新聞記事

添付資料 1. 会場の構成と写真

①ブースエリア

参加企業・機関が各ブースにて、学生に対して自社説明会を実施するエリアです。



②コミュニケーション・エリア

ブースエリアでの説明後、参加企業・機関の担当者と学生が個別に話しをしたい時に、ラフな形でコミュニケーションをとるためのエリアです。フリードリンクも用意しました。また、来場学生の休憩場としてもご利用いただきました。また、今回は、参加企業・機関からの来場学生へのメッセージを掲示したところ、ブース訪問の合間に学生が見ていました。



③展示コーナー

展示エリアでは、放射線の性質や、それを利用した技術について、パネルや放射線測定キットを用いて紹介しました。学生1～2名程度に対して当協会の職員が説明し、理解活動を実施しました。



④資料コーナー

参加企業・機関のパンフレットを置くコーナーです。時間等の都合でブースを訪問することができなかった学生もパンフレット等の資料を入手することができます。

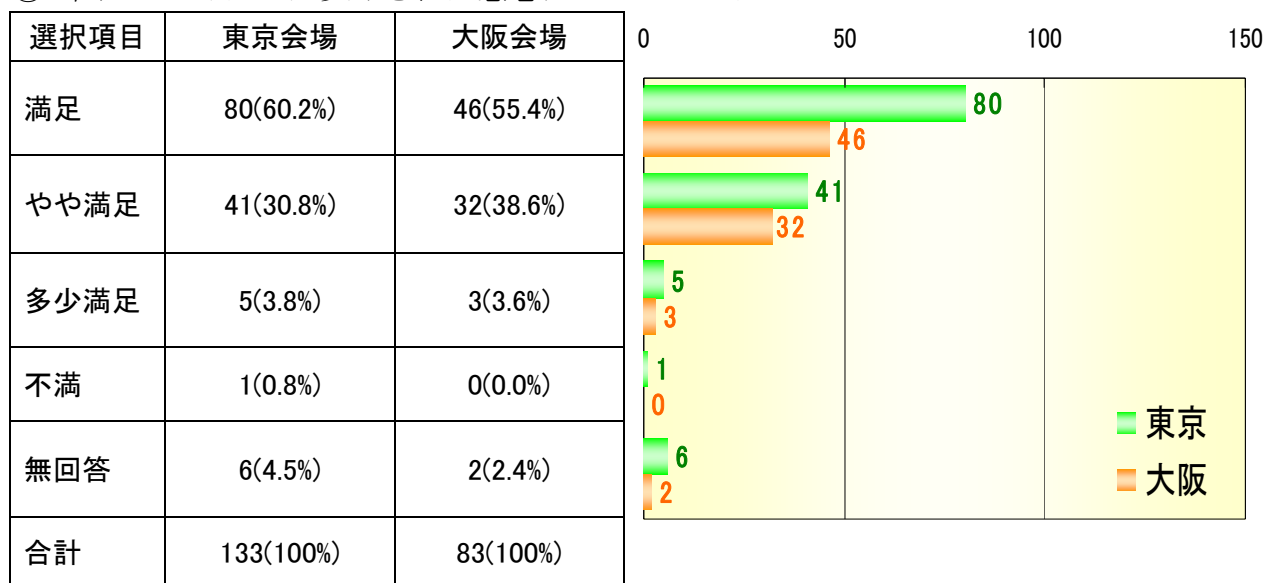


添付資料 2. 来場学生の声（アンケートより）

以下の来場学生の声は、入場時に学生が受付に提出するエントリーシートとは別に、当協会が独自に実施しましたアンケートよりの抜粋です。アンケートの提出は任意です。アンケートの回収率は、東京会場で約 50%、大阪会場で約 67%でした。

これらのアンケートは「原子力」という単語を含む名称の合同企業説明会「原子力産業セミナー2014」に来場した学生に対して実施したものです。従いまして、原子力関連学科の学生の参加割合が高く、基本的に原子力に対して関心のある学生がアンケートの対象です。そのため、集計結果は全国の学生における原子力に対する平均的評価ではないことに留意する必要があります。

① 本日のセミナーに参加された感想はいかがでしたか？



「満足」「やや満足」と回答した学生は両会場で9割を超え、来場学生の満足度は非常に高かったものと考えられます。

上記設問の理由について（アンケート自由記入欄の代表的な意見を抽出）

東京会場

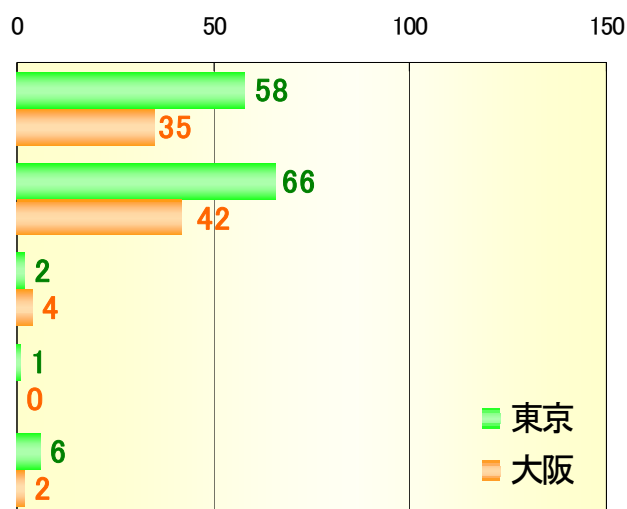
- ・原子力をメインにしていない企業の原子力分野に対する取り組みを知れる。
- ・もう少し早くから参加しておけばよかった。
- ・原子力産業の深さを知れた。
- ・自分のやりたい事業が明確になった。
- ・業界への理解が深まった。
- ・原子力産業界希望の学生は特化した情報を得ることができるから。
- ・新しい企業に出会えた。
- ・原子力事業についての興味・理解を深めることができた。

大阪会場

- ・会社の方針を聞いた。
- ・報道では聞くことのできない電力会社の考えを聞くことができたから。
- ・原子力産業について、どんな仕事をしているのかが理解できた。
- ・土木系の学科でも原子力とつながっていたから。
- ・業界から業務内容まで知ることができた。
- ・原子力への興味と知識を高めることができたから。
- ・もう少し企業数があればいい。

②セミナーに参加されたことで、原子力産業への理解は深まりましたか？

選択項目	東京会場	大阪会場
とても深まった	58(43.6%)	35(42.2%)
やや深まった	66(49.6%)	42(50.6%)
あまり深まらなかった	2(1.5%)	4(4.8%)
不満	1(0.8%)	0(0.0%)
無回答	6(4.5%)	2(2.4%)
合計	133(100%)	83(100%)



上記設問の回答理由について（アンケート自由記入欄の代表的な意見を抽出）

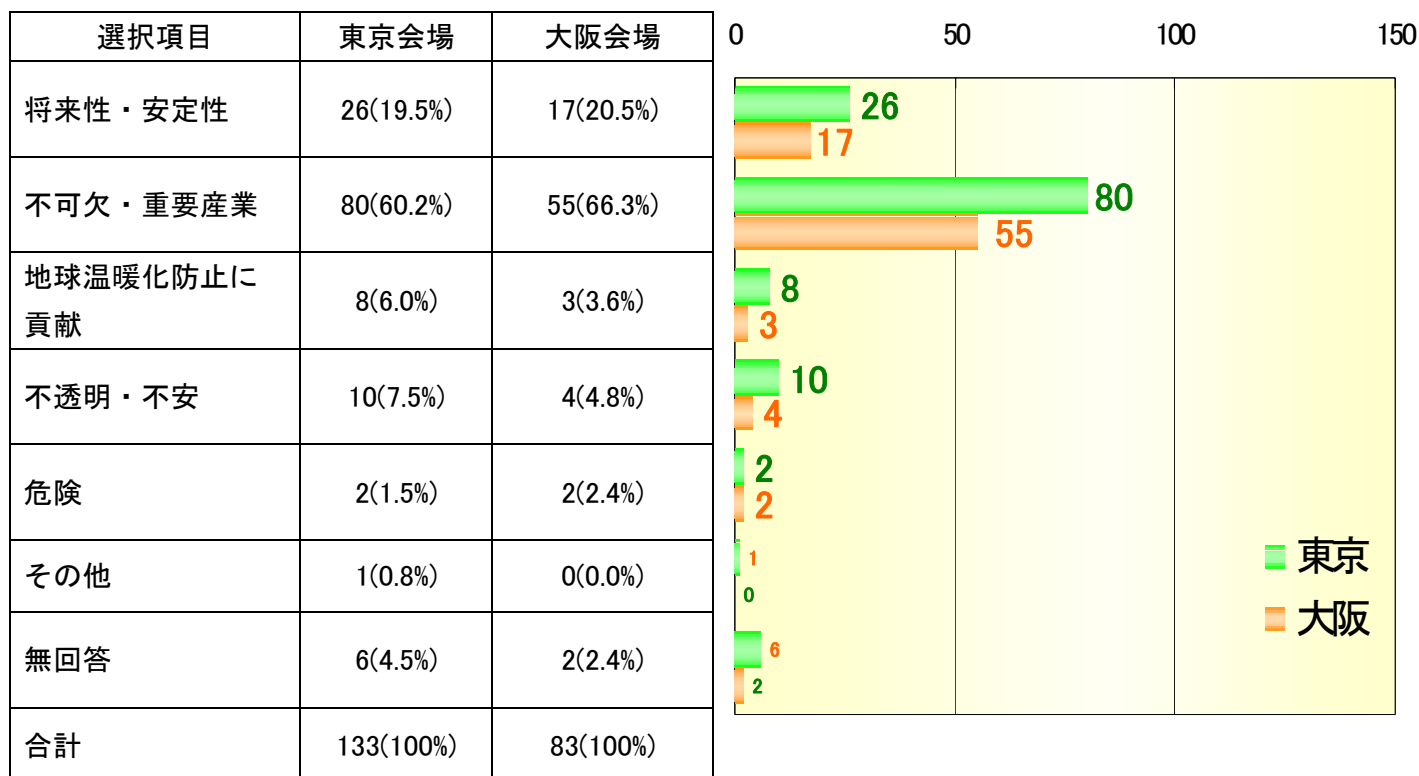
東京会場

- ・どのような企業があるのか、知ることができたから。
- ・直接関わってなさそうな企業も関わっていると知ることができたので。
- ・様々な業種に原子力が使われていることを知り、見識が深まりました。
- ・HP よりも詳しい情報を得ることができるため。
- ・各企業の担当の方がわかりやすく説明してくれたから。
- ・世界情勢も含め、色々話を聞いたから。
- ・様々な業種に原子力が使われていることを知り、見識が深まりました。
- ・原子力はいろいろな分野の集合体だと感じた。
- ・特定の企業・団体の説明が多く、業界への理解は深まらなかった。

大阪会場

- ・国内外の現状を知れた。
- ・現在の日本の企業・法人における原子力事業の方向性と問題について知ることができた。
- ・原子力というなかなか関わらない分野について知れたから。
- ・原子力についての重要性を再認識した。
- ・各社の安全対策がわかったから。
- ・各企業の説明を聞いたことで現状を知れたから。
- ・マイナスイメージがプラスになった。
- ・予備知識が少なく、少ししか理解できなかった。
- ・原子力は危ないから。

③原子力産業に対して、どのようなイメージをお持ちですか？



上記設問の理由について（アンケート自由記入欄の代表的な意見を抽出）

東京会場

- ・日本へのエネルギー安定供給のため。
- ・石炭石油は枯渇するので、原子力は必要になるから。
- ・核融合に興味があり、これからの開発が期待されるから。
- ・再生可能エネルギーにまだ見通しがたっていないため。
- ・二酸化炭素を減らすために、今後 100 年最も重要な仕事だから。
- ・エネルギー分野だけでなく医療分野にも貢献できるため。
- ・産業・システム・インフラの全てにおいて重要だから。
- ・事故で縮小傾向にある。

大阪会場

- ・将来があるのか不安がある。
- ・発電・医療の両面で重要だから。
- ・社会を支える電力の安定供給のためにも、他に変わる技術がないから。
- ・電力に関して言えば、コストパフォーマンス。
- ・どのようにするのがわからない。
- ・エネルギー枯渇、環境問題、安定供給など、不可欠な産業と感じている。
- ・日本の経済活動の核になると感じました。
- ・資源のない日本にとっては重要だから。
- ・安全に扱えば大きなエネルギーの可能性を持っている。
- ・不透明・不安であるからこそ、今後発展し続けていく産業と感じています。

④原子力産業セミナー2014 に対するご意見・ご感想があればお聞かせください。

(アンケート自由記入欄の代表的な意見を抽出)

東京会場

- ・原子力関連企業が一同に介して、他社との比較もできて参考になった。
- ・ゆっくり話を聞くことができ、有意義だった。
- ・多くの会社を一度に見ることができ、効率的だった。
- ・新たな発見と興味がわいた。
- ・業界に特化し、とてもためになるセミナーでした。
- ・3.11の地震の件があり、原子力について考え直されている中、これからは今まで以上に必要になってくる分野と感じました。
- ・世の中的には原子力は悪という風潮が高まっていますが、本日のセミナーでは、原発以外に最先端技術、品質管理、環境の保全に役立っていることを知りました。そのような点を理解してもらうためにも、このセミナーで大々的にアピールして欲しいです。
- ・原子力に対する考えが少し変わった。これからも伸びるところがあると感じた。
- ・原子力分野の説明をどの企業も深く行ってくれたので、理解を深めることに役立ちました
- ・興味のなかった企業の話も聞くことができ、もっと企業研究していこうと思いました
- ・プラントメーカー、発電事業者、医療利用など様々な業種から見た原子力・放射線について知ることができた。
- ・日本の原子力を担う会社を一度に見ることができてよかった
- ・原子力を一度にたくさん見ることができて、とても有意義でした。今後も継続し、原子力をひっぱりまく人材の発見に役立ててください。
- ・原子力に特化しており、大変密度の濃い一日を過ごせました。
- ・2年前のセミナーと比べると、規模が小さくなっている。現在の業界を取り巻く状況を感じました。

大阪会場

- ・自分の興味のある企業が多数あり、効率的に就活が行えた。
- ・理系向けのセミナーだと思うが、文系の私でも企業をより深く知るいい機会になった。
- ・様々な企業のPRを聞けて、とても勉強になった。
- ・原子力に対しては悪いイメージを持っていたが、今回のセミナーを通じて、原子力はなくしてはならない存在と感じました。こういうセミナーをもっと社会的に広げていくことで、原子力に対する考え方が変わるのだと思います。
- ・エネルギーの中核を担っており、安定供給性が高いので。
- ・個別説明会が東京のみの企業もあったため、関西で本セミナーが開催されたことはありがたいかったです。
- ・これからの世界的な問題を解決できるのが原子力と思っている。さらなる安全性の追求と住民からの理解を得ることがこれからは求められると思う。そういった点を各社から聞くことができ、大変参考になった。
- ・業界に特化したセミナーで、知識も深まり、とても役に立つセミナーでした。
- ・メディアで偏った見解が多く、実際に企業の方からお話を聞いたことは非常に新鮮で勉強になりました。参加人数も少なく、じっくり話を聞くことができ、大変有意義でした
- ・コミュニケーションスペースでの会話が良かった。とても興味深いお話をじっくり聞くことができた。
- ・業界に特化しており、興味のある私には大変参考になる1日でした
- ・少人数で各社の話をじっくり聞くことができてよかった。他社との比較ができたことも他にはない貴重な経験となりました。



原産協会が就職セミナー

来春卒の大学生・大学院生を対象とした原子力産業界の合同企業説明会「原子力産業セミナー2014」がこのほど、東京・新宿で開催された。電力会社、メーカー、研究機関など21の企業・団

合同企業説明会の会場には原子力業界に興味を持つ多くの学生が訪れた(4日、新宿区)

原子力産業の魅力広く 絶やせぬ人材21者出展

体が出展。同業界を志望する学生に事業内容や求める人材像などを熱心に説明した。主催した日本

原子力産業協会の担当者は「どんな状況になっても原子力の技術と人材は、この先何十年と必要であることを訴えていきたい」と話した。

原子力産業セミナーは原子力産業界への理解促進と学生の就職支援を目的に毎年行われており、今年で7回目。9日には

関西原子力懇談会主催で、大阪・梅田でも開かれる。

東京会場には265人の学生が来場。燃料メーカーなどが採用を控えていることから出展数は昨年から減少したものの、来場者数は東京電力福島

第一原子力発電所事故の影響を受けた、昨年の223人からやや回復した。

最近の傾向では、原子力・エネルギー分野の学生に比べ、機械・電気工

学系の学生の来場が減少しており、原産協会では「より幅広い学生に業界

の魅力を伝えていきたい」と業界一丸で人材確保・育成に注力する方針。

服部拓也・同協会理事長は「学生のなかには会場を訪れて初めて原子力業界の幅広さを実感する人も多い。特に中小メーカーにとっては、自分たちの会社と仕事を理解してもらい良い機会になっている」とセミナーの意義を強調していた。

関西の就活学生 原子力離れ顕著

企業13社出展に123人

平成26年春の新卒者を対象に、電力会社やプラントメーカーなど原子力関連企業が9日、大阪市内で開いた合同企業説明会の参加者が、前年から半減し史上最低となった。東京電力福島第1原発事故により前年の参加者もピーク時の4割強と大幅に落ち込んだが、その後の原発停止や電力会社の業績悪化を受け、学生の深刻な「原子力離れ」が浮き彫りになった。

この日、開かれた日本原子力産業協会と関西原子力懇談会が主催する「原子力

産業セミナー」には、関西、中国、中部の3電力や大手プラントメーカー、日本原燃など13社が出展した。だが学生の参加者はわずか123人にとどまり、担当者は「厳しい結果だ」と肩を落とした。

同セミナーは原子力産業への学生の就職支援を目的に、東京では18年度から開かれており、大阪でも21年度から開催。東京と大阪を合わせた参加者は、ピーク時の22年度で1903人にとどまった。だが、今年は東京・大阪合わせ388人と前

年(496人)を割り込んだ。東京での参加者は前年から2割回復したが、大阪の落ち込みが響いた形だ。

原発再稼働の見通しが不透明なことから、燃料メーカーなどが採用を手控え、大阪での出展企業が半減したのが理由の一つとみられる。ただ、原子力工学を専攻する学生数も減少しており、日本の原子力技術を支える人材確保に懸念の声も少なくない。

それでも、リクルートスーツ姿で参加した学生らは熱心に聞き入った。立命館大情報理工学部3年の中村健人さん(21)は「企業が原子力の安全に取り組んでいることがわかった」と就職活動に意欲。担当者は「電気系や機械系など、幅広い分野の学生に原子力の魅力を伝えていきたい」と述べた。

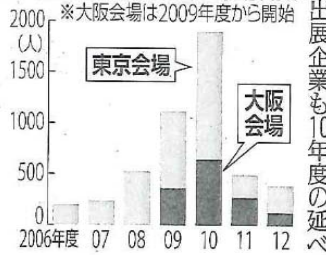
原子力業界 長い冬

原子力関連企業でつくる日本原子力産業協会は9日、大阪市内で合同就職説明会を開いた。来場者数は福島第一原子力発電所の事故前の2割以下の123人となり、原子力業界の人気低下は一層鮮明になった。原発の長期停止による業績悪化で出展を取りやめた企業もあり、企業と学生の双方にとって「冬の時代」が続く。

就職説明会 震災前の2割以下

廃炉、安全な原発 学生の志が頼り

合同就職説明会の来場者数
※大阪会場は2009年度から開始



説明会は毎年、東京、大阪の2会場で開催。事故前の2010年度には計1903人が集まったが、東日本大震災後の11年度は496人、12年度は388人まで落ち込んだ。出展企業も10年度の延べ65社から、12年度は34社まで減少。この日、大阪会場に出展したのは電力会社など13社で、核燃料製造会社などは参加を取りやめた。危機感を強める企業側は、事故後に進めた安全対策や、将来展望を丁寧に説明するなど、人材確保に懸命だ。

中国電力は、原発のイラストを使って安全対策の説明に時間を費やした。担当者「まずは自分が働く発電所が安全だと納得してもらいたかった」と話す。三菱重工業は、原発機器の輸出など海外事業をアピール。関西電力は原発の見学会への参加を呼びかけた。

一方、あえて逆風の業界を志望する学生たちには、前向きな姿勢が目立つ。京都大学で原子核工学を学ぶ武川哲也さん(26)は「使用済み核燃料の処分や廃炉の技術開発など、今後ますます必要となる原子力の研究に携わりたい」と意欲を燃やし、福井大学で原子力安全工学を専攻する福本真也さん(24)も「事



日本原子力産業協会が開いた合同就職説明会に参加する学生ら(9日、大阪市北区)＝若杉和希撮影

発を目指す姿勢が大事だ」と話していた。同協会の服部拓也理事長は「原子力に対するマイナ

トキペリカンの仲間だった!

※学会が分類変更

国の特別天然記念物トキを含むトキ科の分類について、日本鳥学会がこれまで



新潟県・佐渡の空を舞うトキ(2011年9月27日撮影)

を持つ学生がいることは心強い。こんな時だからこそ、高い志を持った若者たちに来てほしい」と話す。

のクワトリ目から、ペリカン目に変更されたことがわかった。近年のDNA解析で、ペリカンに近いことがわかったため、環境省は「分類が変わっても保護の位置づけには全く影響ない」としている。生物の分類では「科」の上に「目」があり、トキはクワトリに外見が似ていることから、クワトリ目トキ科とされていた。とこ

俊寛白筆の書

平氏打倒の「鹿ヶ谷の陰謀」に加わり、流罪になった平安後期の僧・俊寛の書状が、「陽明文庫」(京都市)の所蔵品から発見された。平家物語に登場する名僧だが、自筆書状が見つかるのは初めて。専門家は「達筆だったことがうかがえる」としている。

公家の古文書を保管する同文庫で、東京大史料編纂所の尾上陽介准教授らが調査、公家の日記「兵範記」(重要文化財)の紙背文書から確認した。当時は、不要となった文書の

趣旨の内容。筆者不明が、分析の結果、署名は俊寛とわかった。4は、再利用時の紙の切半分を判読できないが、むりには読み取れると

